

## 解答

一

- 問一 進学した方がおまえのためだ（ということ）。  
問二 六郎だけは自分の鍛冶屋の夢に賛成だろうと考えていると思っている。  
問三 鍛冶職人がいかに素晴らしい職業かについての話は、鍛冶屋の夢を諦めることと反対であること。  
問四 ちいさなものをおろそかにせずひとつひとつ、丁寧な仕事を積み重ねてきた人生。  
問五 エ  
問六 浩太、わしだけがおまえの親方ではない  
問七 ア  
問八 昼食を終え

二

- 問一 (a) 都合 (b) 有効 (c) 意図 (d) 菜園 (e) 源  
問二 ウ  
問三 日本ではクズ粉の原料となり役に立つ植物が、アメリカでは大繁茂して害草となっている。  
問四 その植物が農地の肥料や石油の代替燃料として人間の役に立つから。  
問五 ドイツ人は何も手を加えない自然のままの状態の庭がすばらしいと考え、日本人は雑草だらけの庭はきれに  
問六 思わないという違い。  
問七 固定観念  
問八 ウ  
オ

## 解説

一

- 問一 学年一番の成績を上げる少年の母が頼むことは何かについて考え、「進学」という言葉に着目し、問題文の指示通りに抜き出します。  
問三 傍線③に含まれる「それ」の指す内容をおさえ、鍛冶屋になる夢は捨て、進学した方がよいという説得の内容に触れながらまとめます。  
問八 「昼食を終え」の前では、六郎が説得に至るまでの様子が描かれています。後には、説得しているときの様子が述べられています。

二

- 問五 「ところで、」から始まる段落で、ドイツ人と日本人の庭に対する考え方を述べているので、それぞれすばらしいと考える点をまとめて書き表します。  
問八 本文では「雑草」という呼び名が、人間の役に立つか立たぬかという都合によって、つけられていると述べています。また役に立つか否かの判断は、見る人の立場によって異なり、日本人はドイツ人と違い、自然のままの姿の植物を偏見の目で見ていることを指摘しています。これらのことから筆者は、固定観念にとらわれると、考え方の多様性を失うと感じているので、本文の主張としてもっとも適切なのは、選択肢オとなります。